

貧困による教育格差を減らすには？



1. このテーマを選んだ理由

- ・ SDGsを調べていく中で、この問題が目に入り、興味を持ったから
- ・ 自分は教育が受けられているけれど、そうではない人たちは何が原因でどう解決していくべきか調べてみたいと思ったから

2. 現状

- ・ 2015年の厚生労働省の調査によると、「7人に1人の子供」が貧困状態にあると言われている
- ・ 日本全体に換算すると約280万人にも登る
- ・ 全世帯の大学進学率が73.2%なのに対し、生活保護帯の進学率は33%と半分近くまで減少し、さらに生活保護帯内での地域格差が大きい

		2019年度(%)	20年度(%)
生活保護世帯の子どもの大学などへの進学率(都道府県別)	1 大阪	46.2	大阪 45.0
	2 東京	42.0	新潟 43.6
	3 広島	40.8	東京 43.0
	4 新潟	40.7	宮城 42.8
	5 福岡	40.5	沖縄 40.6
	6 神奈川	39.9	京都 39.3
	7 兵庫	39.1	神奈川 38.3
⋮		⋮	
41 岩手	20.5	三重 21.5	
42 栃木	20.4	山形 21.1	
43 宮崎	20.2	徳島 18.0	
44 富山	20.0	福島 16.1	
45 長野	19.6	石川 16.0	
46 徳島	19.5	高知 13.4	
47 山形	16.7	長野 11.1	
		首位と最下位の格差	
		2.8倍	4.1倍

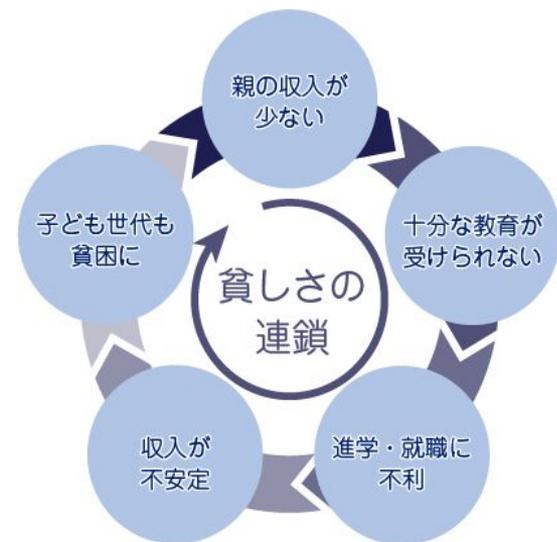
※生活保護情報グループ調べ

3. 問題点

- ・日本には奨学金制度があるとはいえ、学校卒業後に大きな支払いをしなければならず、金銭的な理由のために学びたいことがあっても進学することができない人がいる
- ・通いたくても塾に通うお金がなく、通うことができない
- ・教育の無償化制度ができたが、授業料が無償化されるだけで、結局の所は一定程度お金がかかってしまうし、対象者も限定的なところがある

4. 今後の課題

- ・ 教育無償化の対象者の範囲を広げる
- ・ 親の収入が低い→十分な教育が受けられない
→進学や就職で不利→収入の高い職に就けない
→子ども世帯も貧困に→ というような貧困の連鎖が生まれないような対策案を考えていくべき



5. 10代からの提言

金銭的に免除をしたりする制度などの解決策もいいけれど、学歴社会といわれている今の現状を解決できるよう企業側も努力して、学歴がものすごく良くななくてもいい人材を起用してくれるようなそういう社会になってほしいと思う

6. 考察

日本は問題視されていることに対しての対応や対策を打ち出すのが少し遅いのではないかと思った

7. 感想

- ・ 貧困による教育格差について今の現状や問題点、課題について詳しく知ることができ、それを知って、伝えることが大事なんだということに気がついた
- ・ 日本の貧困状態に当てはまる人の割合が想像していたよりも大きくて驚いた

・引用

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/sdgs_icon/

https://www.tokyo-np.co.jp/article_photo/list?article_id=176029&pid=661194

<https://images.app.goo.gl/TwxEWMnQbKRNUvjL8>